

自己紹介と、働くことについて

2010.4.19(月)

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」 <http://benkaku.typepad.jp/blog/>

一。長久の自己紹介

【これまでの歩み】

1974年9月13日、岡山市に生まれる。

3歳の頃、親の転勤で東京へ。高校卒業し、岡山で就職。5年間会社勤め。

1998年にいまの「岡山県労働者学習協会」で働きはじめる。

2002年に結婚。子どもはまだなく、相方と早島町で2人暮らし。

仕事の紹介など。

【人生、5つの目標】

100歳まで健康に生きる（最終目標は2080年、106歳）

沖縄に移住する（一番難しそうな目標。いまは現実的でない）

世界50か国を旅する（現在まだ2か国・・・）

宇宙から地球をみる（これは可能性かなり高いと思う）

21世紀の早いうちに、まともな日本社会をつくる



【趣味】

読書・・・なんでも読む。小説では池波正太郎が大好き。

映画・・・だいたい年間平均20本。今年は30本観ようと目標を決めている。

旅行・・・ひとり旅も好き。そして沖縄は、最低年1回行かないと、息苦しくなる。

二。「ものの見方・考え方」の講義について

1. 目的

ものの見方や考え方が、その人の実践・行動の判断基準となる

豊かに、謙虚に、事実からものごとを見る姿勢をつちかう

看護の国家試験とは、まったくいっさい関係のない内容です

*3年間で、学びの原動力の質的发展を。そのための役だちにこの講義がなれば。

2. カリキュラム（予定）

4/19 自己紹介と、働くことについて

4/26 人間の「手」について

5/10	絵本を読む(1)「わたし」
5/17	絵本を読む(2)「おぼえているよおおきな木」
5/24	絵本を読む(3)「100万回生きたねこ」
5/31	絵本を読む(4)「わすれられないおくりもの」
6/7	ものの見方考え方ー事実を大切にする
6/14	ものの見方考え方ー変化とつながりのなかでとらえる
6/21	戦争と平和(1)
6/28	戦争と平和(2)
7/5	戦争と平和(3)
7/12	未定
8/23	子どもの命みつめて(ビデオ学習)
8/30	子どもの命みつめて(ビデオ学習)
9/6	主権者として生きる



3. その他

必ず5分間程度の休憩を1回とります

テストについて(レポート形式です)

読書日記

*私が最近読んだ『本』を毎週、講義の冒頭に紹介します。みなさんの学びの刺激になればと思います。

三。なぜ「働く」のでしょうか

1. 自分なりに「3つ」思いつくまま書いてみてください

2. ちなみに、すべての人が働くことをやめたら、どうなりますか？

無数の人びとの労働によって支えられて

「君が生きてゆく上に必要な、いろいろな物をさぐって見ると、みんな、そのために数えきれないほどたくさんの人が働いていたことがわかる。それでいながら、その人たちは、君から見ると、全く見えず知らずの人ばかりだ。この事を、君は、へんだなあと感じたね。

広い世間のことだから、誰も彼も知り合いになるなどということは、もちろん、出来ることじゃあない。しかし、君の食べるもの、君の着るもの、君の住む家、…すべて君にとってなくてはならないものを作り出すために、実際に骨を折ってくれた人々と、そのおかげで生きている君とが、どこまでも赤の他人だとしたら、たしかに君の感じたとおり、へんなことにちがいない」

(吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫)

*分業と、職業選択

*みなさんは、この3年間、仕事の側面からいえば、基本的には「社会の役には立てない」。他人の労働を一方的に「受け取る側」。「与える側」に立つための準備期間。

3. 社会的な視野から、ものごとを見てみることの大切さ

なぜみなさんは、ここに集ってきたのでしょうか

*看護学校に入学した動機は人それぞれ、生まれ育った環境、家族構成、これまで歩んできた道のり、性格も、みんな違う人間。しかし、ここに集っている。

*いま、この瞬間にも、全国で何万人という看護学生が、看護師になるために勉強をしている。なぜか？

看護労働ってなんだろう - その社会性

*逆の発想で考えてみましょう

*いま、百数十万の看護師が24時間体制で日本の医療や地域の人びとの健康を支えています。もし、日本中の看護師が仕事をいっせいに放棄したら、どうなるでしょうか。病院は、地域は、この国は、はたして成り立つでしょうか

*もし、日本中の看護学生が「もうやめた」となったら、どうなるでしょうか。

*看護労働は、社会にとって、なくてはならないもの…つまり社会性をもつ

「1人称のものの見方」から抜け出すことで、看護労働の意味も深まる

「自分たちの地球が宇宙の中心だという考えにかじりついていて、人類には宇宙の本当のことがわからなかったと同様に、自分ばかりを中心にして、物事を判断してゆくと、世の中の本当のことも、ついに知ることが出来ないでしまう。大きな真理は、そういう人の眼には、決してうつらないのだ」 (吉野源三郎、前掲書)